

ピロリ菌感染症国際共同研究チーム（研究代表者：山岡吉生）

ピロリ菌国際共同研究ネットワーク

アジア: 14か国, 44施設
アフリカ: 6か国, 10施設
アメリカ: 2か国, 2施設
ヨーロッパ: 1施設

ピロリ菌分離株は7,500株超え
世界最大規模のゲノム疫学拠点

優れた研究機関との融合研究

- ・革新的で独創性の高い成果
- ・大型外部資金の獲得
- ・新学術分野における若手育成

① A. ピロリ菌の病原因子に関する研究（胃オルガノイド、細菌叢解析）

大分大学医学部：村上、塚本、松本、赤田

大阪市立大学：城戸康年 准教授

米国ベイラー医科大学：Hashem B El-Serag教授

B. 薬剤耐性に関する研究（バクテリアGWAS）最新のゲノム解析技術の応用

大分大学医学部：村上、松本、赤田

国立感染症研究所：矢原耕史 室長

上海パスツール研究所：Daniel Falush 研究員

C. 迅速、安価な低侵襲ピロリ菌検査法の開発 県内企業との連携

大分大学医学部：松本、赤田

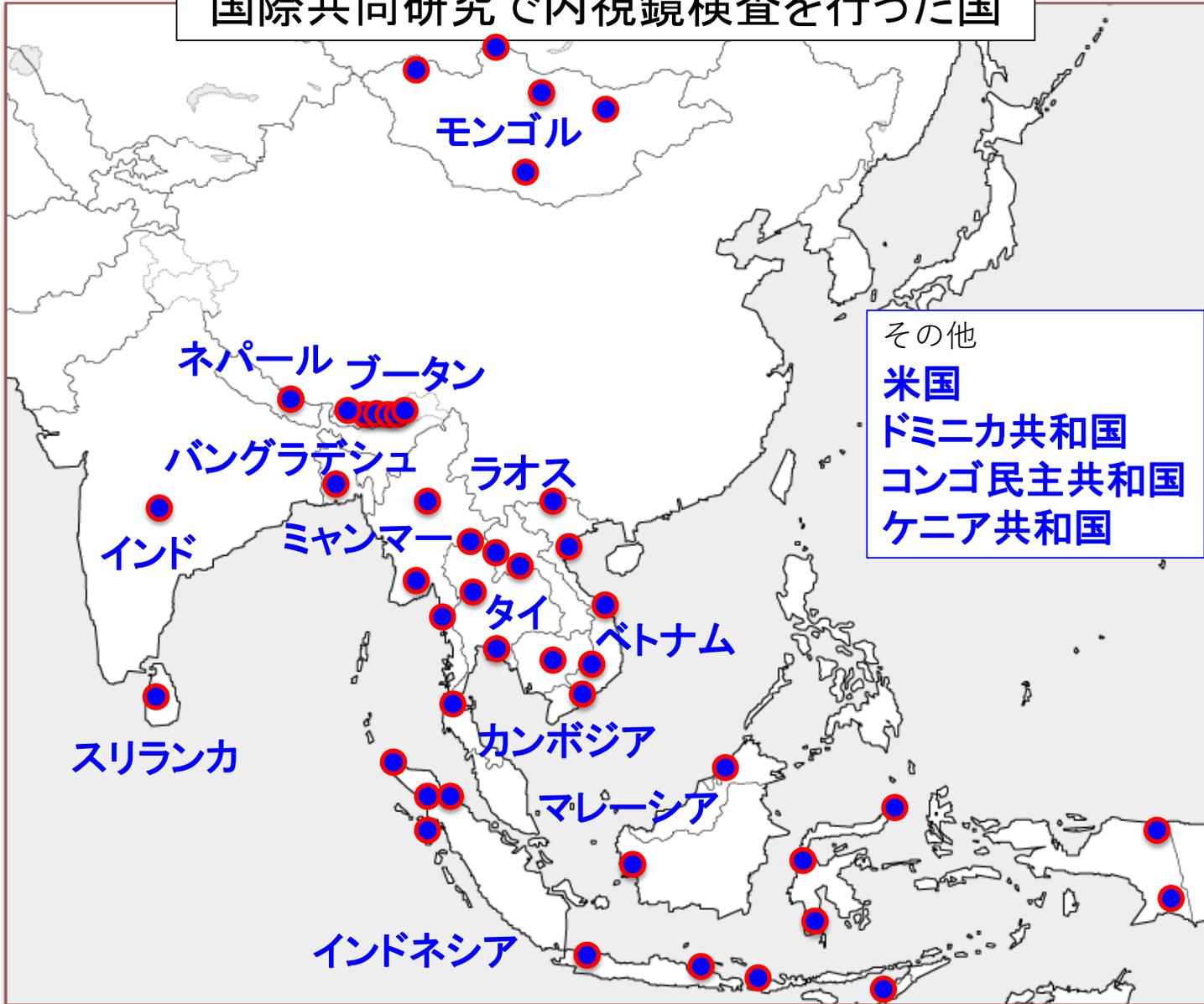
熊本大学：松尾祐一助教

② ピロリ菌を用いた人類の進化の歴史に関する融合研究

国立遺伝学研究所：斎藤成也 教授、鈴木留美子准教授

新学術研究領域「日本列島人のルーツを探るヤポネシアゲノム」事業
南アフリカベンダ大学：Yoshan Moodley教授

国際共同研究で内視鏡検査を行った国

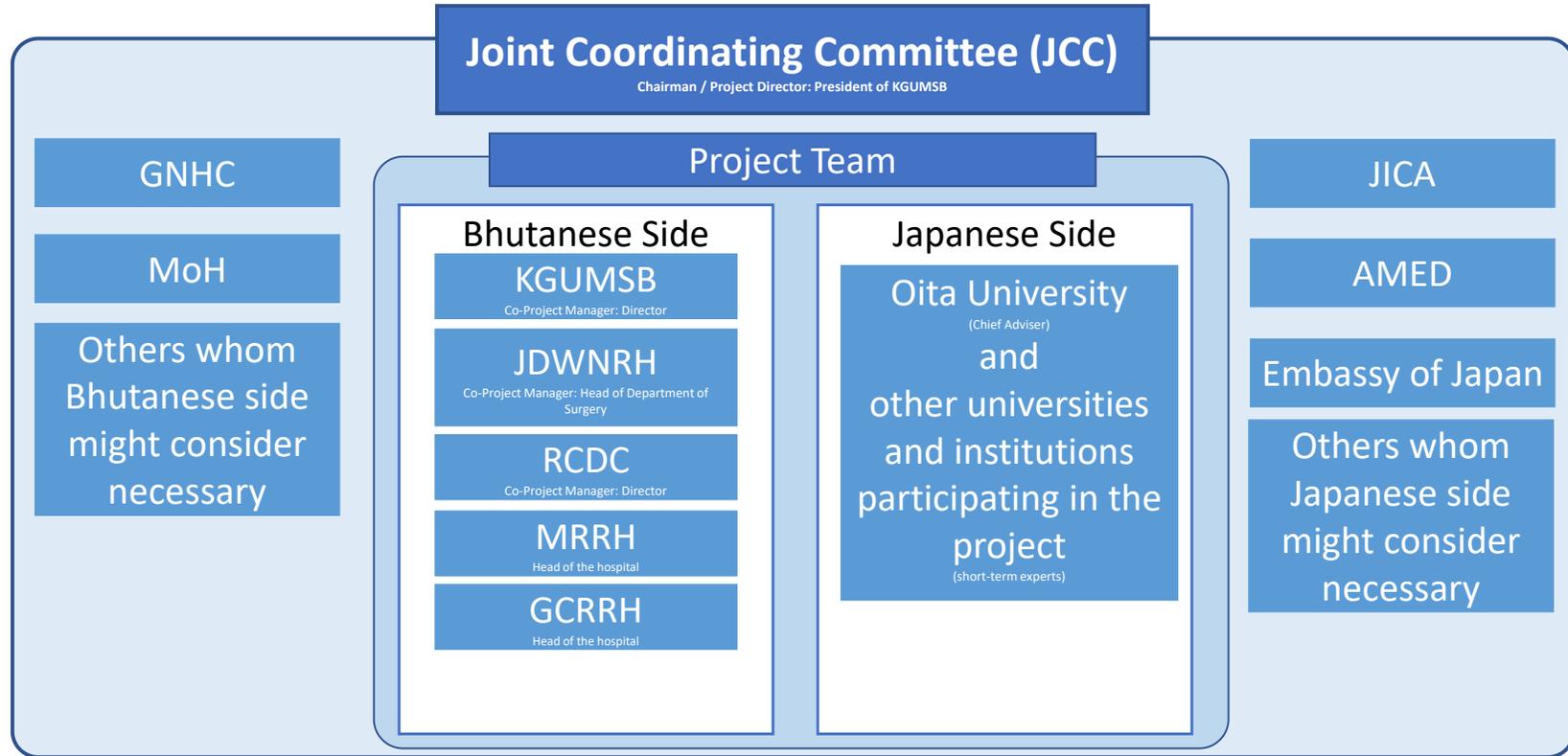


約20カ国の海外研究機関とピロリ菌のゲノム疫学研究を継続している（図）。「新学術領域研究先進ゲノム解析研究支援プラットフォーム(JSPS)」の支援の下、ピロリ菌の全ゲノム配列に挑み、令和元年度に、本研究チームでも全ゲノム解析パイプラインを確立し、薬剤耐性や病原因子に関する研究成果を国際学術雑誌へ多数報告した。さらに、海外研究機関と協力し、ピロリ菌以外の胃細菌叢と胃癌発症との関連性など消化器疾患の病態機序について研究を進めた。



ブータンで内視鏡検査を行う山岡

SATREPSでの組織図



KGUMSB: Khesar Gyalpo University of Medical Sciences Of Bhutan
 JDWNRH: Jigme Dorji Wangchuck National Referral Hospital
 RCDC: Royal Centre for Disease Control, Department of Public Health, Ministry of Health
 MoH: Ministry of Health
 GNHC: Gross National Happiness Commission
 GRRH: Gelephu Central Regional Referral Hospital
 MRRH: Mongar Regional Referral Hospital

JICA: Japan International Cooperation Agency
 AMED: Japan Agency for Medical Research and Development

特出すべきことは、ブータンとの国際共同研究が飛躍的な発展を見せたことで、その成果として、令和元年12月26日、大分大学で100校目となる大学間協定をブータン唯一の医科大学であるケサール・ギャルポ医科学大学との間で締結することができた。

現在、ブータン首相と連携して、ブータンにおける胃癌撲滅政策を、本チームが担当している。その成果として、ブータンに関しても、「地球規模保健課題解決推進のための研究事業(AMED/GACD)」、「地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム(SATREPS: AMED/JICA)」を得ることができた。